

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102347		
法人名	有限会社 シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家		
所在地	長崎県西海市西彼町小迎郷1074-3		
自己評価作成日	令和4年7月26日	外部評価結果確定日	令和4年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&jigyousoCd=4270202197-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「夕暮れ時にも輝く人生」を理念とし「入居者が主役、スタッフは脇役」の標語のもと、尊厳をもって介護をしている ・看護師・介護員・病院が連携し、ターミナルケアに取り組んでいる ・スタッフの学びたいという気持ちを大事にし、研修・受験にかかる費用を補助している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道から眺められる位置にあり、近くは西海橋、日本三大急潮の一つ伊ノ浦瀬戸があり、春は桜と、うず潮が楽しめる自然豊かな場所にある。グループホームでは、安心し、自分らしく穏やかで、尊厳のある生活を営む事が出来るよう支援する為、不適切と思われる対応や言葉を使用した際には、その場で管理者が注意をし、共有スペースには共通標語を掲示したり、スタッフ間でも「注意する勇気を持ちましょう」を合言葉にスタッフ一言言葉遣いを全員が共有して、入居者への対応に当たっている点を評価する。グループホーム運営に関して、スタッフ間ではLINE等を使い情報を共有し、管理者からも積極的に情報を発信している。毎年スタッフ全員が自己評価表を作成し、それに基づき管理者との面談を行いキャリアパス制度を実行している点を評価する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットで朝礼後唱和を行い、チームとしての再確認をし質の高い介護の実現に努めている	コロナ禍にあり、グループホーム全体で理念について、話し合いが出来ない状態である。共有するのは、申し送りノートとグループLINEを活用して情報を共有している。夜勤者と日勤者との申し送り朝礼後に理念の確認と唱和を行っている。「その人中心の生活」を目標に掲げ、各入居者がこれまでやってきた事、得意な事を介護計画に組み込んで支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で現在は地域とのつながりは途絶えているが、以前は行っていた。買い物や散歩での挨拶など	コロナ禍前は、入居者の買い物など地域の方々との交流はあったが、クラスターの予防観点から買い物も含めて中止している。今後コロナ感染の状況を見ながら地域の方々へ、認知症についてや家族に認知症を抱えている方へのアドバイスをを行う機会を設けて、グループホームと地域の付き合いを深めていきたいと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの為出来ていない(夏祭りや運営推進会議他)			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で書面会議を行っている	コロナ禍において対面での運営推進会議は行っていない。各ユニットから①入居者報告②活動内容③活動予定④事故報告をまとめて運営推進会議議事録を作成している。行政から入居者の転倒例について問い合わせがあった時、イス、ソファの位置を変更する等アドバイスを受け、他にもリビングには必ずスタッフが常駐するようにし、スタッフが着座する場合は入居者を前にすることにより転倒事故の減少につながっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話等で空き状況を伝えている	コロナ禍前様々な行事が出来ていた頃は、市役所へ桜の花の見頃や伊ノ浦瀬戸の渦潮の時期情報等の問い合わせやグループホームでのサービスの取り組みを報告していた。最近ではコロナ感染の対応について指導を仰ぐ等に留まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	Web研修を年2回受け、レポートの提出をしている。身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1回実施している	以前は、ベッドから離床した時に知らせる「センサー」をご家族の了承を得て夜間のみ使用していたが、身体拘束の疑いがあるとの意見から、見守り支援システム「眠リスキャン」の介護ロボットを令和4年8月13日から導入した。全入居者の体動を測定し睡眠状態を把握しており、わずかな変化にも対応出来るようになっている。他にも2カ月に1回身体拘束委員会を開催し委員会の内容は出席した管理者から各ユニットスタッフに伝え、周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	Web研修、グレーゾーンの事例等を全ユニットで共有し、研修を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	キーパーソンだが血縁関係もなく、なるべく携わりたくないという方が市の安心サポートに相談できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所時にわかりやすく説明を行い、不安や疑問がないか確認している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、コロナ禍の為面会が出来ず利用していない。要望は電話にて対応している	ご家族に向けて2カ月に1回「希望の家だより」を写真中心に広報誌を発行している。発行月は全ての入居者の写真を掲載する事になっているが、たまたま連続2回に渡り掲載されていない入居者のご家族からクレームを受け、以後写真の掲載には十分注意を払っている。入居者の中には思いや意見を上手に出来ない方とのコミュニケーションについては、筆談の他入居者の顔色、目の色等表情をくみ取り入居者の思いに答えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティング等で出た意見を、管理者が主任会議の場で協議している	以前は月に1回ミーティングを開催していたが、コロナ禍において現在は中止している。これまでのスタッフ意見の中からバラバラに設けていた休憩時間を3ユニット同一時刻に統一して、ユニット間の協力体制が進んだ。毎年3月、スタッフは自己評価シートを作成し、管理者が評価し年1回面談を実施している。キャリアパス制度を導入して、スタッフのモチベーションの向上やスキルアップに繋がりを評価制度を開示し、給与にも連動した制度となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の事情を管理者が把握し、勤務表の作成を行い、代表へも報告している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数ごとに個々に合った研修をすすめている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとのWeb研修で交流を行った。また、勉強会を通じて質の向上に努めた		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時からの聴き取りや情報提供等でその方を理解し、無理のないサービス計画を作成している。コミュニケーションを図り、信頼関係に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話等で家族の意見を傾聴し、会社の方針や対応例を伝え、安心して頂けるよう伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聴き取りを行い、課題を全員で検討している。本人の要望も取り入れ、日常の生活状況をみながら必要としている事を支援できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	必ず説明と同意を確認し信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方のご家族にはLINE電話等を使い、家族との絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブで住んでいた土地を訪れたりして、関係が途切れないよう支援している	コロナ禍において直接の面会が厳しくなり、グループホームとしては、なんとか入居者との関係が切れなくする為、タブレットを導入してリアルタイムで面会が可能となった。ご家族や地域の方々との関わりが少ない方には、以前お参りしていた墓に行くことを継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手作業や、ソファーにての雑談、テレビ鑑賞をしている。円になって体操や歌を歌い、孤立しないよう全員でひとつの事を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も外部で会った時には近況を尋ねたり、相談があれば親身に答える様にして関係性を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望をよく聞き、思いにそった支援を行っている。またスタッフ全員がその事を共有するようにしている。家族にもその旨を伝え協力を求めている	入所前の情報を聞く時に、入居者のご家族から、生活習慣の改善や趣味の継続、グループホームでの暮らし方の希望などを聴き取っている。入所後は、日々の会話の中で、思いや意向を引き出しているが、困難な場合は、筆談やジェチャーや方言を使い話しかけ、また表情様子などから把握するよう努めている。スタッフは、個々の入居者の意向や思いを介護計画に取り入れ、全員で共有し支援を行っている。畑作業がしたいという入居者と野菜を育て収穫し、共に収穫の喜びを分かち合うことができています。また、入居者ひとりひとりの生活リズムに合わせた対応も取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に収集した情報をよく理解し、ご家族とも共有しながら、これまでの生活歴を全スタッフが把握する様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の流れを把握し、変化があった事は必ず記録し全スタッフが共有するように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネや計画作成者を中心とし、ミーティング等で課題とケアのあり方を考え、介護計画を作成している	管理者が、病院や居宅へ伺い、入居者とご家族や、病院関係者から詳しく情報収集を行っている。入所後は、各ユニットの管理者と介護計画作成者により一週間程で一回目の介護計画を作成している。入所者の課題解決に向け、長期計画(目標)を立て、詳細で具体的な短期介護計画を作成している。介護計画に沿って、時間帯が違うスタッフがそれぞれケアを行い、細かく記録を取りモニタリングを行い次のステップへ繋げている。見直しは、年一回は必ず行い、体調の変化によってはその都度行っている。コロナ禍前は、家族を含めた担当者会議で見直しを行っていたが、今では改訂した介護計画を家族に郵送し承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者が実施したプランの記録をみてモニタリングを行い、他のスタッフの意見等を参考にし、次の計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で面会ができなかったが、昨年より各ユニットにパソコン・タブレットが導入され、ビデオ電話などでオンライン面会ができるようになった。また生活記録もパソコン上で管理するようになり、入居者と携わる時間が増えた		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるイベントや、ご家族の来訪等を行っていたが、コロナにより地域との交流がもてない状態になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異変があればすぐに他診療科目の受診ができるよう、主治医と連携し受診に繋げている	入所する際に、入居者とご家族には、かかりつけ医を緊急対応ができる提携病院へ変更してもらうよう勧めている。提携病院へは入所時に、ご家族と共に受診し、その後はスタッフで定期的に受診対応を取っている。受診後ご家族へは、体調変化や薬の変更など細かく報告し内容を共有している。かかりつけ医を変更しない場合は、今まで通りご家族に受診介助をお願いしている。連携歯科医院は、受診できない入居者に訪問での診療を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に入居者の情報を伝え、適切に看てもらうようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族にも報告を行い、病院・施設・家族での関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期を迎えた時は、ご家族や施設医療関係者と十分な話し合いを持ち、本人に一番良い方向で支援できる様努めている	ここ二年ほど、看取りは行っていない。コロナ禍前は、居室で家族が泊まり込みで付き添い、介助ができていたがコロナ禍の為今はできていない。今までの介護プランの中には、リビングの畳のスペースで、二十四時間見守り、他の入居者・スタッフの声、料理の匂いなど日々の生活を感じられるような、理念に沿った介護プランもあった。エンジェルセット（タオル・服）の使用、主治医の診断後の清拭などの終末期ルールをスタッフ間で共有し、ターミナルチェック表を使いチームで支援できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍により訓練はできていない 事故等に備えての応急手当訓練もできていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	5月に防災委員会を実施し、年3回避難訓練を行っている。また防災用備品の点検と在庫チェックを行い、全スタッフがその場所を把握するようにしている	災害時には、通報ボタンを押すと近隣の協力者へ連絡がいくようになっている。消防からの指導により、防災ラベルがついたカーテンを取付け、防災委員は、三日分の水・食料や防災用品などの備蓄点検を行い防災意識を高めている。	令和三年には、避難訓練が一回しかできていない。夜間時を想定した訓練を含め、二回の避難訓練をすることを期待する。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、トイレ等羞恥心を損なわない対応又は、行動する前の言葉かけを必ず行っている。尊厳を守るための言葉かけを行うようにしている	入居者に尊敬の念を表すため、言葉かけには細心の注意を図り、行動する前には、必ず入居者に説明し、同意を得て行動するよう徹底している。不適切な行動、言葉かけに対しては、事業所の問題と考え対応している。トイレ支援時には、スタッフ間で隠語を使い、自尊心を傷つけない対応をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな行動をするにしても自己決定ができるような言葉かけに気を付けている。質問の仕方や言葉を発せられるような声掛けを行う		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の流れは決まっているが、その人の思いや考えを優先し、ドライブや散歩お昼寝等、希望に添った支援をするようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は自己決定で洋服選びをしていただき、行事の際はお洒落着を着ていただく。起床時の髪の毛の乱れをチェックして直して頂くようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に作ったという実感を持って頂きたい、野菜の皮むきや豆のすじ取り等、その方の能力に合わせてできる作業をして頂いている。又、片付けもして頂いている	コロナの感染拡大で、スタッフが調理することが困難となり、一時的に外注での提供を行った。日頃は、スタッフが冷蔵庫にあるもので六品調理し、重複しないように記録をとっている。野菜中心の食事を提供し、血糖値が改善した例もある。食事中は、BGMを流したり、ラジオをつけたりして楽しめるように支援している。入居者には、準備や片付けを手伝ってもらい、食べたいものなどの意向は調理前に聴き取っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分を摂るコップに印をつけ、1日に1Lは摂れるように提供している。食事形態もその方に合わせ刻み・ミキサー等提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分でして頂き、出来ない所を手伝っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンをスタッフで把握し統一している	日中入居者は、布の下着にパットをあて生活し、トイレでの排泄を基本としている。排泄パターンは、タブレット端末やパソコンで管理し、スタッフ間でも共有できている。支援する際は、そっと耳元で声掛けをし、見守りの援助を行っている。夜間、大半の入居者は、居室のポータブルトイレではなく手すりを使いトイレまで行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日規則正しい生活に心がけている。野菜中心の食事の提供や個々に応じた時間でトイレの案内を行っている。腹部マッサージや緩下剤の服用等を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前の体調管理確認を行い、拒否がある時は中止している。柚子や菖蒲を入れたり、心身共にリラックスできるサービスや、個々のニーズに合った支援を行っている	入居者は、週二回入浴し、着替えの服は自ら選んでいる。入浴拒否がある時は、無理強いせず次回にしたり、部分浴をしたりして対応している。全介助の入居者も入れるリフト浴では、スタッフ一人で介助できない場合は二人で介助を行い、入居者に合わせた支援を行っている。また、冬場は浴室と脱衣場の温度に気を配り、季節を感じるよう湯船に菖蒲や柚子を浮かべ、心地よく入浴できるようにも支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間はリビングのソファや畳などでくつろいで頂き、夜間はエアコンを利用して気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ダブルチェックを必ず行うと同時に、副作用等で体調に変化がある時の為、常に気を付けるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビを見る、会話を楽しむ、手先を使う、お手伝いをされる等、それぞれに合った楽しみ方を見つけて過ごされるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブは出来ているが、コロナ禍により地域の方との交流はできていない	計画的な外出支援が今はできていない。帰宅願望の強い入居者の思いを汲み取り、ふるさとに近いところまで、他の入居者数名と一緒にドライブに出かけたり、季節の花を見に行く際には、車から降りることはせず車から観賞している。1ユニットではあるが、歌詞が書いてあるパネルを見ながら歌い、お茶を飲みながら日光浴を頻繁にしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要かどうか一緒に考えて話し合いをしている。本人が所持している安心感で自己管理している方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の家便りで日々の生活をお知らせしたり、オンラインで通話をしたり、知り合いの方へ手紙を書き送られている		
52	(19)	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾りつけで季節を感じて頂いたり、リビングではゆっくりテレビを見て楽しめるようソファの配置に気を付けている。 又、共用トイレには消臭剤を置き、不快にならないよう気を付けている	共用の空間は、掃除と消毒をスタッフが行い、四時間置きに窓全開で換気し、室温も温度計を確認しながら調整している。明るく広々とした空間には、観葉植物や季節を感じるものがさりげなく飾ってある。七夕の時は、入居者に折り紙を折ってもらい、スタッフと共に飾り付けを行っている。 入居者は、午前午後の決まった時間には、輪になり体操を行い身体機能の維持に務め、趣味やオセロゲームやパズルをしたり、テレビを見たりして過ごしている。居室に戻る方は少なく日中はリビングで過ごしていることが多い。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自好きな居場所が決まっており、おしゃべりを楽しんだりして皆で休める空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品、写真、テレビ等を置いている。自宅で使われていた家具や日用品を居室内に置き、居心地よく過ごせるようにしている	居室は、専属のスタッフが週五日掃除を行い清潔に保っている。以前はテレビの持ち込みができなかったが、今は入居者の希望に沿って許可している。各々の入居者の居室は、ご家族の写真や贈り物が飾ってある部屋もあれば、物がなくシンプルな部屋など入居者が落ち着いて暮らせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の所に目印を置き、自分の居室が解るようにしている。又、文字で大きく表示している		